

医 動 物 学

科目責任者 室 山 良 介
学年・学期 2 学年・3 学期

I. 前 文

医動物学とは、人体に健康被害を及ぼす動物を広く対象とする学問であり、人体寄生虫学と衛生動物学から成り立っている。人体寄生虫学（寄生虫病学）は、原虫類や蠕虫類などの体内に寄生する寄生虫を主な対象とする。一方、衛生動物学は、外部寄生虫や有毒動物など、さまざまな有害動物（衛生動物）を扱う。

現代の日本では衛生環境の改善により古典的な寄生虫病は減少したが、食品由来寄生虫症、輸入感染症、動物由来感染症、日和見感染症などは依然として重要である。これらを正しく理解し、診断・予防・治療に活かすため、医動物学を学ぶ意義は大きい。また、寄生虫症をはじめとする感染症対策は、SDGsの達成にも深く関わる、国際社会全体の共通課題である。特に有病国では深刻な問題となっており、こうした状況を理解するためにも、グローバルな視点で医動物学を学ぶことが重要である。

II. 担当教員

講 師 桐 木 雅 史 微生物学

III. 一般学習目標

- ・人体に寄生し、病害を与える原虫類・蠕虫類の形態、生態、発育史および感染経路を理解し、それらに起因する疾病の基本的病態、診断、治療、予防について基礎的知識を習得する。また、ヒトの健康に直接間接に関わる衛生動物の主な種類、病害、治療、疫学的問題点についても習得する。

IV. 学修の到達目標

- 1) 寄生虫の生物学的特性、すなわち分類、形態、構造、機能、生活環を説明できる。
- 2) 寄生虫性疾患における病原体の伝播様式と予防法について説明できる。
- 3) 原虫類、蠕虫類感染とそれらによる病態を宿主－寄生虫関係の面から説明できる。
- 4) 寄生虫症の検査・診断について説明ができる。
- 5) 寄生虫性疾患の疫学的問題点を説明できる。
- 6) 主な衛生動物の種類と、その衛生動物がもたらす病害を説明することができる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	11	18	水	3	医動物学総論 (医学英語Ⅱ:12)	桐 木 雅 史	1
2		19	木	1	線虫性疾患1【総論/各論1】	桐 木 雅 史	1
3		19	木	2	線虫性疾患2【各論2】	桐 木 雅 史	1
4		19	木	3	吸虫性疾患1【総論/各論1】	桐 木 雅 史	1
5		20	金	1	吸虫性疾患2【各論2】	桐 木 雅 史	1

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
6	11	24	火	1	条虫性疾患1【総論/各論1】	桐 木 雅 史	1
7		24	火	2	条虫性疾患2【各論2】	桐 木 雅 史	1
8		25	水	3	原虫性疾患1【総論/各論1】	桐 木 雅 史	1
9		26	木	1	原虫性疾患2【各論2】	桐 木 雅 史	1
10		26	木	2	医動物学のまとめと今日的課題, 医動物学実習ガイダンス	桐 木 雅 史	1
11		27	金	1	衛生動物	桐 木 雅 史	1

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

定期試験の成績に基づいて評価する（100%）。

不適切な受講態度が見受けられた場合には減点対象となることがある（10%以内）。

なお、定期試験問題内の英語問題は「医学英語II」の評価として集計される。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

特に指定しないが、以下のものが教科書としてあげられる。

- 1) 図説 人体寄生虫学, 改訂10版（吉田幸雄原著, 図説人体寄生虫学」編集委員会編, 2021, 南江堂）
- 2) 標準微生物学, 15版（錫谷達夫, 松本哲哉編, 2024, 医学書院）
- 3) 標準皮膚科学, 12版（石河晃, 奥山隆平, 阿部理一郎編, 2025, 医学書院）

VIII. 質問への対応方法

問い合わせ先：桐木（kirinoki@dookyomed.ac.jp）にアポイントをとる。

微生物学講座（総合教育研究棟8階804号室）月～金曜日 8：30～17：00

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養, 利他の精神, 医師に求められる品格を身につけ, 豊かな人間性を育み, 他の医療者と協調して, 多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	○
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び, 情報・科学技術を活用して, 生涯にわたって自ら問題を発見し, 解決することができる	◎
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と, その中核を担う意味を理解できる	
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し, 課題解決に向けて行動することができる	
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み, 医学・医療の進歩に貢献することができる	○

- X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
試験問題は公開しないが、問題の解説をLMSを通じて公開する。
- XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間
【求められる事前学習】（所要時間：講義ごとに20分程度）
・シラバス別冊の要点およびLMSの事前学習資料に取り組む。
【求められる事後学習】（所要時間：講義ごとに15分程度）
・LMSの事後学習に取り組む。
- XII. コアカリ記号・番号
PS-01-03-13
PS-01-03-16
PS-01-03-17
PS-03-05-09